

## 秋田県 博士号教員の取組について

東北大学大学院理学研究科

小谷元子

東北大学大学院理学研究科と秋田県教育庁は連携の取り決めに交わしている。そのような経緯で、秋田県の面白い取組を知った。博士号をもった高校教員が「博士号教員」として専門的知識を活かした教育活動で活躍しているというのである。

早速、秋田県総合教育センターのホームページを覗いてみると「博士号教員の出張プラン」が掲載されている。また、文部科学省のホームページには平成21年5月18日付け秋田県教育委員会による「博士号教員の活用について」というページがあった。

### 博士号教員要請派遣事業の目的

#### (1) 児童生徒の意欲や関心の向上を図る

小学校・中学校・高等学校において、高い専門性に裏付けられた知的世界に触れる機会を提供することを通して、児童・生徒の夢を育み、意欲や関心の向上を図る

#### (2) 生徒の学力向上と教員の授業改善に資する

専門的な実験や演習を通して、最新の高度な知識や技能を生徒や教員に伝え、生徒の学力向上を図ったり、教員の授業改善に資する

大学院博士課程で研究の経験をもった人材が、初等・中等高校教育にたずさわる意義は大きい。「数学通信」編集委員会より要請を受けて、秋田県教育庁高校教育課ご担当係、および、実際に博士号教員として活躍しておられる秋田県立横手清陵学院高等学校瀬々将吏先生にアンケートをお願いし、より詳しく実態を調べてみることになった。

現在、秋田県全体で博士号教員は9名で生物系：2名、物理系：3名、化学系：1名、工学系：1名、農学系：2名。残念ながら数学系教員はいない。平成20年度より高度な専門知識を持つ人材を学校現場に配置し、理数系教育のより一層の充実と学校教育の活性化を促すことを目的に、理系の博士号取得者を対象とした教員採用試験を行っている。平成20年度

は57名中6名、平成21年度は12名中2名の採択と、かなり高倍率のなかから選ばれた精鋭教員である。博士号教員は、特定の高校に所属しているが、所属高校にとどまらず、秋田県内の小中高校に出向いて出張授業を行う。上記ホームページを見ると、なかなか意欲的な授業を行っているようだ。体験した生徒からの感想から、科学に対する興味をもつきっかけになっていることがよく分かる。所属校内では通常の授業も行うが、授業数を軽減され、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業などを中心とした課題研究や補習授業、科学部の活動を行っている。評判はよく、他の都道府県でも同様の取組を開始したところがある。

アンケートに回答いただいた瀬々先生、博士論文のテーマは「弦の場の理論における厳密解とタキオン凝縮」。現在も、研究活動は積極的に行っていますとのこと。博士号教員としてのレポートとメッセージをいただいた。

実際には、高校での教育と研究の両立は困難なこともあるかもしれない。今、高大連携が積極的に行われている中で、このような博士号教員と大学の交流が産まれると、双方向に学ぶ事があるように思う。このような制度が全国に広がることを期待する。